

[ I ]

問 1

- (1) 箱の外にいる人が観測した場合、質点は水平右向きに加速度  $a$  の等加速度運動をしている。

質点の垂直方向の力のつり合いの式は

$$T_1 \cos \theta = mg \quad \cdots \cdots \textcircled{1}$$

質点の水平方向の運動方程式は

$$ma = T_1 \sin \theta \quad \cdots \cdots \textcircled{2}$$

- (2) 箱の中にいる人が観測した場合、質点には水平左向きの慣性力  $ma$  がはたらく。

質点の垂直方向の力のつり合いの式は

$$T_1 \cos \theta = mg$$

質点の水平方向の力のつり合いの式は

$$ma = T_1 \sin \theta$$

- (3) (1) (2) での式は全く同じなので、どちらを用いてもよい。

①②より

$$\frac{ma}{mg} = \frac{T_1 \sin \theta}{T_1 \cos \theta} \quad \therefore \tan \theta = \frac{a}{g}$$

問 2

- (1) 風船にはたらく重力の大きさは  $\rho Vg$ 、慣性力の大きさは  $\rho Va$  である。また重力と慣性力に対しての浮力の大きさがそれぞれ  $\rho_0 Vg$ 、 $\rho_0 Va$  である。

風船の垂直方向の力のつり合いの式は

$$\rho_0 Vg = \rho Vg + T_2 \cos \phi \quad \cdots \cdots \textcircled{3}$$

風船の水平方向の力のつり合いの式は

$$\rho_0 Va = \rho Va + T_2 \sin \phi \quad \cdots \cdots \textcircled{4}$$

- (2) ④より

$$T_2 \sin \phi = (\rho_0 - \rho)Va \quad \cdots \cdots \textcircled{4}'$$

③より

$$T_2 \cos \phi = (\rho_0 - \rho)Vg \quad \cdots \cdots \textcircled{3}'$$

③'④'より

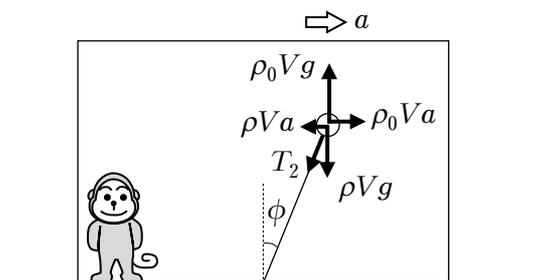
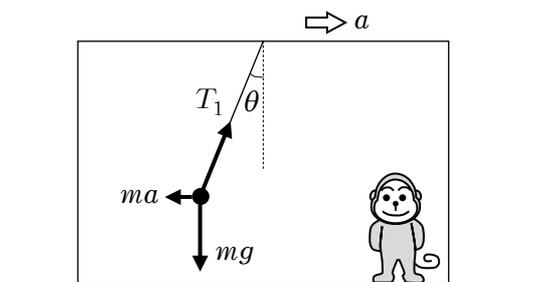
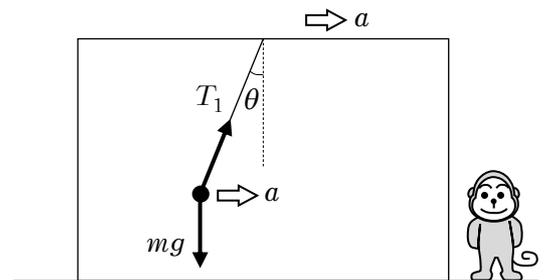
$$\frac{T_2 \sin \phi}{T_2 \cos \phi} = \frac{(\rho_0 - \rho)Va}{(\rho_0 - \rho)Vg} \quad \therefore \tan \phi = \frac{a}{g}$$

- (3) ③'と④'の両辺を2乗して足すと

$$T_2^2 (\sin^2 \phi + \cos^2 \phi) = \{(\rho_0 - \rho)V\}^2 (g^2 + a^2)$$

風船が浮くことから、 $\rho_0 > \rho$  であるから

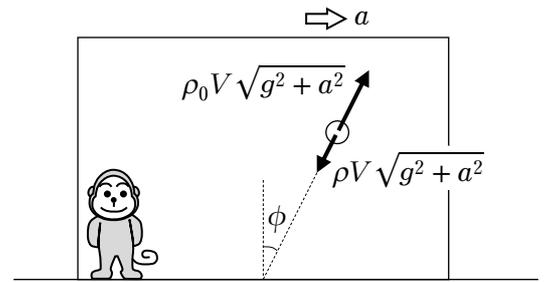
$$T_2 = \frac{(\rho_0 - \rho)V \sqrt{g^2 + a^2}}{1}$$



(4) 重力と慣性力の合力と、浮力(合力)は右図のようになる。

糸を切断した後の風船は、鉛直線から進行方向に対して  $\phi$  の角をなす方向に上昇するため、風船が空気から受ける抵抗力の向きはその反対向きである。よって終端速度  $v_1$  になっているときの力のつりあいの式から

$$\begin{aligned} \rho_0 V \sqrt{g^2 + a^2} &= \rho V \sqrt{g^2 + a^2} + kv_1 \\ \therefore v_1 &= \frac{(\rho_0 - \rho)V \sqrt{g^2 + a^2}}{k} \end{aligned}$$



なお、重力と慣性力、浮力については糸の有無に関わらず同じで、かつ張力  $T_2$  と抵抗力  $kv_1$  の向きが同じなので、 $T_2 = kv_1$  である。

〔Ⅱ〕

問1 A→B は定圧変化なので、絶対温度は体積に比例する。

$$T_B = T_0 \times \frac{aV_0}{V_0} = aT_0$$

問2 A→B は定圧変化なので、定圧モル比熱  $C_P$  を用いて

$$Q_1 = 1 \times C_P \times (T_B - T_0) = (a - 1)C_P T_0$$

問3 気体定数を  $R$ 、絶対温度を  $T$  とすると、理想気体の状態方程式から

$$PV = 1RT \quad \therefore P = \frac{RT}{V}$$

断熱過程において「 $PV^\gamma = \text{一定}$ 」が成立するので、

$$\frac{RT}{V} \times V^\gamma = \text{一定}$$

よって  $R$  も一定であることから、「 $TV^{\gamma-1} = \text{一定}$ 」が成立する。

B→C において

$$T_0(aV_0)^{\gamma-1} = T_C(bV_0)^{\gamma-1} \quad \therefore T_C = \frac{a^\gamma b^{1-\gamma}}{1} T_0$$

D→A において

$$T_D(bV_0)^{\gamma-1} = T_0V_0^{\gamma-1} \quad \therefore T_D = \frac{b^{1-\gamma}}{1} T_0$$

問4 C→D は定積変化なので、定積モル比熱  $C_V$  を用いて

$$Q_3 = 1 \times C_V \times (T_D - T_C) = (1 - a^\gamma) b^{1-\gamma} C_V T_0$$

問5 C→D は定積変化で圧力が下がることから放熱過程である。すなわち  $Q_3 < 0$  である。

よって熱効率  $e$  は

$$e = 1 + \frac{Q_3}{Q_1}$$

問2と問4の答えを代入して

$$e = 1 + \frac{(1 - a^\gamma) b^{1-\gamma} C_V T_0}{(a - 1) C_P T_0} = 1 + \frac{(1 - a^\gamma) b^{1-\gamma} C_V T_0}{(a - 1) C_P T_0} = 1 + \frac{(1 - a^\gamma) b^{1-\gamma}}{(a - 1) \gamma} \quad \left( \because \gamma = \frac{C_P}{C_V} \right)$$

問6 問5の答えに与えられた数値を代入して

$$e = 1 + \frac{(1 - 2^{1.4}) 4^{1-1.4}}{(2 - 1) \times 1.4} \doteq 1 + \frac{(1 - 2.6) \times 4}{1.4 \times 7.0} \doteq 0.347 \doteq \underline{0.3}$$

〔Ⅲ〕

問1  $U_1 = \frac{Q_a^2}{2C} + \frac{Q_b^2}{2 \times 2C} = \frac{2Q_a^2 + Q_b^2}{4C}$

問2 スイッチを閉じる直前コンデンサー a, b 電圧はそれぞれ  $\frac{Q_a}{C}, \frac{Q_b}{2C}$  である。  $Q_a > Q_b$  であるから  $\frac{Q_a}{C} > \frac{Q_b}{2C}$  である。したがって、スイッチを閉じた瞬間の抵抗を通る正電荷移動向きは (ア)

スイッチを閉じて十分時間たったときの、コンデンサー a, b に蓄えられている電荷をそれぞれ  $Q_a', Q_b'$  とすると、電気量保存則より

$$Q_a' + Q_b' = Q_a + Q_b \quad \dots\dots ①$$

コンデンサー a, b の電圧が等しくなっているので

$$\frac{Q_a'}{C} = \frac{Q_b'}{2C} \quad \dots\dots ②$$

①②より

$$Q_a' = \frac{Q_a + Q_b}{3}, \quad Q_b' = \frac{2(Q_a + Q_b)}{3}$$

抵抗を通った電荷の総量は  $Q_a - Q_a'$  であるから

$$Q = Q_a - Q_a' = \frac{2Q_a - Q_b}{3}$$

問3  $U_2 = \frac{Q_a'^2}{2C} + \frac{Q_b'^2}{2 \times 2C} = \frac{(Q_a + Q_b)^2}{6C}$

【別解】十分に時間が経過するとコンデンサー a, b は並列となる。並列接続されたコンデンサーに電荷  $Q_a' + Q_b'$  が蓄えられている状態に等しいので

$$U_2 = \frac{(Q_a' + Q_b')^2}{2 \times (C + 2C)} = \frac{(Q_a + Q_b)^2}{6C}$$

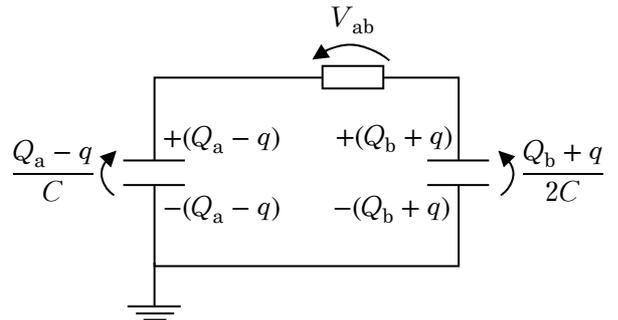
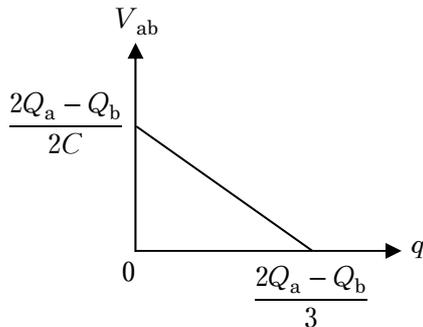
問4 抵抗で生じたジュール熱は、静電エネルギー変化から

$$U_1 - U_2 = \frac{2Q_a^2 + Q_b^2}{4C} - \frac{(Q_a + Q_b)^2}{6C} = \frac{(2Q_a - Q_b)^2}{12C}$$

問5 キルヒホッフの第2法則より

$$\begin{aligned} \frac{Q_a - q}{C} &= V_{ab} + \frac{Q_b + q}{2C} \\ \therefore V_{ab} &= \frac{2Q_a - Q_b - 3q}{2C} \end{aligned}$$

問6  $V_{ab} = -\frac{3}{2C}q + \frac{2Q_a - Q_b}{2C}$



問7 抵抗内の電位差による電界が抵抗内の電荷にした仕事は、問6で求めたグラフにおいて、縦軸と横軸とで囲まれた部分の面積に等しく、これが求めるジュール熱なので

$$\frac{1}{2} \times \frac{2Q_a - Q_b}{2C} \times \frac{2Q_a - Q_b}{3} = \frac{(2Q_a - Q_b)^2}{12C}$$

[IV]

問1

(あ) 三平方の定理より,  $S_0S_2 = \sqrt{R^2 + d^2}$

(い)  $\Delta R = S_0S_2 - S_0S_1 = \sqrt{R^2 + d^2} - R = R\sqrt{1 + \left(\frac{d}{R}\right)^2}$   
 $\cong R \left\{ 1 + \frac{1}{2} \left(\frac{d}{R}\right)^2 \right\} - R = \frac{d^2}{2R}$

(う) 三平方の定理より,  $S_1P = \sqrt{L^2 + x^2}$

(え) 三平方の定理より,  $S_2P = \sqrt{L^2 + (x+d)^2}$

(お)  $\Delta L = S_2P - S_1P = \sqrt{L^2 + (x+d)^2} - \sqrt{L^2 + x^2}$   
 $= L\sqrt{1 + \left(\frac{x+d}{L}\right)^2} - L\sqrt{1 + \left(\frac{x}{L}\right)^2}$   
 $\cong L \left\{ 1 + \frac{1}{2} \left(\frac{x+d}{L}\right)^2 \right\} - L \left\{ 1 + \frac{1}{2} \left(\frac{x}{L}\right)^2 \right\} = \frac{dx}{L} + \frac{d^2}{2L}$

(か)  $(S_0S_2 + S_2P) - (S_0S_1 + S_1P) = \Delta R + \Delta L = \frac{dx}{L} + \frac{d^2}{2L} + \frac{d^2}{2R}$

(き) 明線条件は(か)より

$$\frac{dx}{L} + \frac{d^2}{2L} + \frac{d^2}{2R} = m\lambda$$

$$\therefore x = m \frac{L\lambda}{d} - \frac{d(R+L)}{2R}$$

(く)  $m=0$  で  $x=x_0$  なので, (き)より

$$x_0 = -\frac{d(R+L)}{2R}$$

問2

(け)  $S_0$  から  $S_1$  に向かう経路のうち, 空気中の経路長は  $R-W$  であり, 薄膜中の経路長は  $W$  で光路長は  $nW$  なので, 求める光路長は

$$R - W + nW = R + (n-1)W$$

(こ) 薄膜がないときと比較して,  $S_0S_1$  間の光路長が  $(n-1)W$  だけ長くなるので, 明線条件は

$$\frac{dx}{L} + \frac{d^2}{2L} + \frac{d^2}{2R} - (n-1)W = m\lambda$$

(さ)  $m=0$  で  $x=x_0'$  なので, (こ)より

$$\frac{dx_0'}{L} + \frac{d^2}{2L} + \frac{d^2}{2R} - (n-1)W = 0$$

$$\therefore x_0' = -\frac{d(R+L)}{2R} + \frac{(n-1)LW}{d}$$

(し)  $x_0'=0$  として

$$-\frac{d(R+L)}{2R} + \frac{(n-1)LW}{d} = 0$$

$$\therefore n = 1 + \frac{d^2(R+L)}{2RLW}$$